

平成20年3月5日

記者各位

東京都新宿区西新宿2-7-1
MISAWA・international 株式会社
代表取締役 三澤 千代治

「200年住宅」のコンセプトモデル第3弾 HABITA「SORA・MADO」を発売

「アラサー世代」の「200年住宅」

MISAWA・international 株式会社(代表取締役:三澤千代治、本社:東京都新宿区)は、200年住宅のモデル HABITA「SORA・MADO」を発売します。

平成19年10月1日に、200年住宅 HABITA 構想を発表し、「出居民家」(でいみんか)、「岩瀬牧場」に続く第3弾のコンセプトです。主なターゲットとして「アラサー」を設定しています。新しいライフスタイルを生み出してきた世代の感性を盛り込んだ住まいを提案します。生活スタイルやデザイン、そして土地選びまで、「アラサー」の発想には HABITA の発表してきた「200年住宅」と共通するコンセプトがあります。

プロトモデルの販売価格は1930万円(消費税別)。吹抜け、バルコニーを含む施工面積は42.3坪あり、坪単価45.6万円(同消費税別)です。

販売目標は年間500棟を目指します。

HABITA「SORA・MADO」の主な特徴は次の通りです。

- ① アラサー世代の生活スタイルを研究。
- ② 逆転の発想が盛り込まれた家づくり。
- ③ 「出居」を、「そら窓」に応用する。
- ④ シンプルであることは、基本であること。

① アラサー世代の生活スタイルを研究。

アラサーとは、「アラウンド30」の略でファッション業界の造語。ルーズソックスやプリクラなどの流行を生み出した女性たちの世代が、現在30代前後の子育て期を迎え、住宅建設を考え始めています。新しい生活スタイルを作り上げる能力を持つアラサー世代に向けて、「家づくりカフェ」イベントなどを通じてコンセプトを抽出し、新・モデルとしてHABITA「SORA・MADO」を開発しました。

まさに子育ての最中にあるアラサー世代の特徴は、主に次の通りです。

- ・定番の形におさまらない。 ・コミュニティ、コミュニケーションを大切にする。
- ・子ども部屋を求めているない。 ・自らの手で作るのを厭わない。
- ・「自然さ」を肌で感じる。 ・土地から住宅を求める。

② 逆転の発想が盛り込まれた家づくり。

アラサー世代は従来の定型にはまらず、数々の逆転の発想を住まいづくりにも取り入れ、新しいスタイルとして表現してゆく可能性が大いにあります。子ども部屋などの定められた部屋の機能を求めないことは、間取りや部屋割りをやめ、脱LDKのさらに先に行く減築の発想を、新築住宅の計画の中にも実現します。これに応じて SORA・MADO では、各部屋の名称に、スペース1, 2, 3・・・と表記をしています。また、家族が一体となるコミュニケーションには敏感であり、遮音性よりも親子のつながりを大切にします。また、内装工事の壁塗りなど、自らの手で家を作り上げることも楽しめます。さらに、モダンな空間よりも縁側や土間を求め、床座の生活を考えるなど、肌で自然さを感じる空間づくりに高い共感性をもっています。

③ 「出居」を、「そら窓」に応用する。

国産材で5寸の大きな柱材と梁材を、見えるように構造材に使用した HABITA の住まいづくりのコンセプトは、自然さを求めるスタイルに合ったものです。また、「SORA・MADO」の開発に当たっては、建築家井内清志（アトリエSORA、岡山県岡山市）と共同して、アラサー世代とのコンセプトワークを行なってきました。日本人が1000年前から住宅に採用してきた「出居」（でい：現代流に言うと、アウトリビング）を家の中心に配置し、そら窓の下、オープンエアの空間に開口部を集中させています。外から覗かれる心配もなく、カーテンを閉めて暮らすこともなく、夏の夜には窓を開放しておくこともできます。また、そら窓の配置により、北側道路の土地活用のイメージがわくことで、土地から求めることが多いアラサー世代に選択肢の幅を広げさせてくれます。

④ シンプルであることは、基本であること。

脱LDKの空間のつくりも、大きな柱・梁が見えている構造体のつくりも、「200年住宅」として100年後に古民家再生するための大切な要素です。余計な壁や仕切りがなく、覆ってしまうことで壊してみなければ分からない構造体でもないことは、シンプルな「200年住宅」への対策のひとつです。飽きがこないための「シンプル・イズ・ベスト」ではなく、シンプルであることはもっとも基本的なこと、つまりベースとなることです。住まい手にとって真にベストな状態は、シンプルなベースに経年美を加えながら作られてゆきます。

現在流行しているシンプル・イズ・ベストな陸屋根ではなく、屋根葺き材の見える片流れの屋根を採用しました。

「アラサー世代」の「200年住宅」

HABITA「SORA・MADO」

- ・定番の形におさまらない。
 - LDK、主寝室などの固定概念をなくし、「スペース」と表記することで空間活用の可能性を広げる。
- ・コミュニティ、コミュニケーションを大切にする。
 - 壁とドアで仕切る個室ではなく、家族の気配が感じられるオープンスペースをベースとする。
- ・子ども部屋を求めているない。
 - オープンスペースを上手く活用し、子どもの発想も大切にする家づくり。
- ・自らの手で作ることを厭わない。
 - 自分たちで壁を塗る、デッキをつくる、庭をつくる。家族で作り上げる家は、残したくなる家になる。
- ・「自然さ」を肌で感じる。
 - 「そら窓」からの光と風、家の中には太い柱と梁。木の香りで包む空間。
- ・土地から住宅を求める。
 - 家の中心にある「そら窓」により、北側道路の土地の考え方が変わる、土地探しの可能性が広がる。

以上

「HABITA」とは、(habitation)を短縮化した言葉です。
人を入れる器としての家(house)から、家族のいる原点としての家(home)を経て、
さらに、環境と文化と歴史を含めた家(habitation)をあらわしています。

《当ニュースリリースに関するお問い合わせ》

MISAWA・international 株式会社

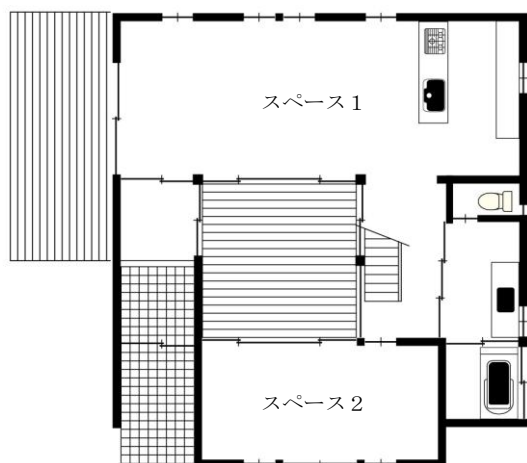
〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1

TEL:03-3348-8031 FAX:03-5326-8610

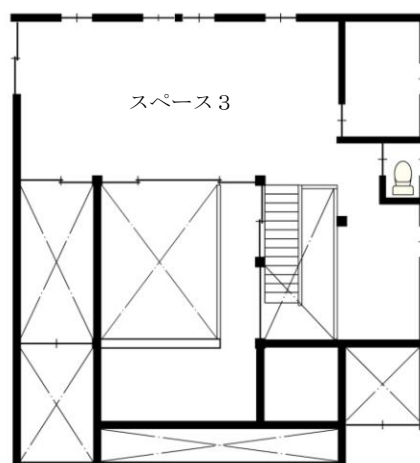
URL: <http://www.m-int.jp/>

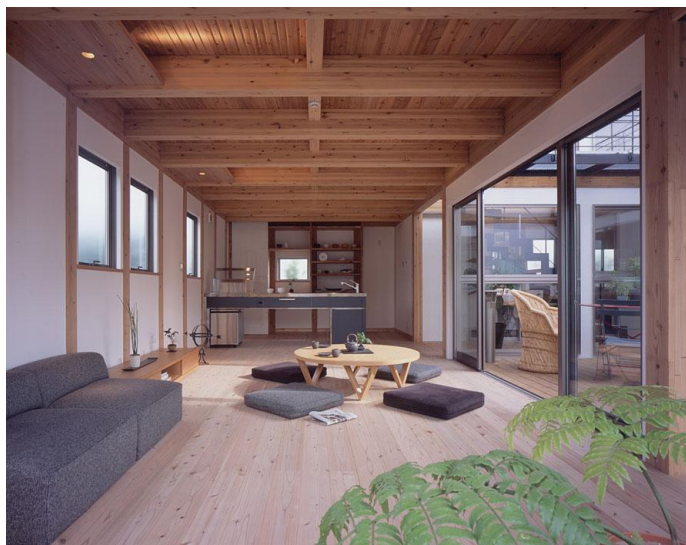
担当者:石川 新治 E-MAIL: sin-isik@m-int.jp

PLAN 1F



2F





※「SORA・MADO」の報道用写真データは下記弊社サイトよりダウンロードできます。

→<http://www.m-int.jp/habita/soramado0803/>

※ 上記モデルは、千葉県船橋市の分譲地内に建設しております。

案内の希望等ございましたら、前述石川までお問い合わせください。